

# 大樹町・JAXA連携協定締結記念講演

【大樹】町多目的航空公園で今年度、新たに大樹町とJAXAの連携協定を記念する講演会がこのほど、町生涯学習センターで開かれた。同協定の中にはJAXA側の教育的支援も盛り込まれており、その第1弾としてJAXA研究開発本部の柳原正明飛行技術研究センター長、同宇宙科学研究本部の吉田哲也大気球実験室長が演壇に立った。要旨を紹介する。(北雅貴)

## 吉田哲也大気球実験室長



宇宙の始まりについては、初期に超高温の時期があり、爆発して現在も膨張しているという「ビッグバン」宇宙論が有力で、20世紀の中でも大きな発見といえる。

宇宙には多くの謎がある。星や宇宙の生成、進化を研究するとき、空気がよくなるなど邪魔になる。薄い空気や高い高度で実験を行う必要がある。大気球の高度は25

## 大気球宇宙の進歩解明に有効

153時。これは成層圏と中間圏に当たる。空気の薄い宇宙には行けない。各航空機がほかの機体の情報をキャッチし、互いに干渉しない経路を設定するほか、効率の良い飛行を目指す。さらに発展させ、実用化させようとしている。

05年9月には次世代運用システムの試験を実施した。各航空機がほかの機体の情報をキャッチし、互いに干渉しない経路を設定するほか、効率の良い飛行を目指す。さらに発展させ、実用化させようとしている。

## 柳原正明飛行技術研究センター長



JAXAは1995年から町多目的航空公園で実験を行っている。10年前は、無人機でのGPS(全地球測位システム)を活用したナビゲーションシステムを開発

し、大樹で実験した。このシステムはそれ以降のベースとなっている。2000年度から04年度までの、文部科学省と総務省の合同プロジェクト「成層圏プラットフォーム」の実験では、定着滞空飛行試験を行った。全長70近い無人飛行船を、大樹の上空、高度4千メートルで1時間、滞空させることに成功。通信放送実験も順調に終えることができた。

## 宇宙往還機の飛行実験今年も

05年9月には次世代運用システムの試験を実施した。各航空機がほかの機体の情報をキャッチし、互いに干渉しない経路を設定するほか、効率の良い飛行を目指す。さらに発展させ、実用化させようとしている。

格納庫内では、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が6月から試験開始予定の大気球や観測機器を運ぶ台車、本立洋上に落下した大気球を回収する際に上空から探索する

大樹航空公園

南十勝町村議会正副議長懇話会

## 飛行管制棟など視察

【大樹】中札内、更別、大樹、広尾各町村議会の正副議長らが2日、町多目的航空公園を訪れ、飛行管制棟と格納庫を視察した。

格納庫内を視察する正副議長ら



参加者からは「格納庫の高さは「JAXA関係者は1回の実験で何人来町するのか」などの質問があった。視察前に大樹町役場で開かれた懇話会では、南十勝町村議会議員パークゴルフ大会(8月1日)や、議会事務局職員研修会(9月26日)の開催などを確認した。(北雅貴)